

解答

I 問1 ア 問2 ウ 問3 ア 問4 イ 問5 エ 問6 ウ
問7 イ 問8 ウ

全訳：あなたはふつう朝食にごはんとパンのどちらを食べますか？

あるオンラインの調査によれば、ごはんを食べるのは回答者の半分以下だそうです。近年、日本料理が海外でブームになっているのに、日本人自身は伝統的な食事から離れているのです。

2013年、日本の伝統料理（和食）がユネスコの無形文化遺産に加えられました。和食は世界的な認知度を高め、より多くの外国人観光客を引きつけ、日本の農産物の輸出を増やすことが期待されています。

和食は自然への敬意、家族や地域を結びつけること、健康や長寿への願いが特徴です。和食のヘルシーなイメージは海外での和食人気に貢献しています。農林水産省によれば、海外の日本料理レストランは2013年の推定55,000店から急激に60%増え、2015年の7月には89,000店になっています。ところが、こうしたレストランの中には適切な知識や技能を持たないシェフが調理に従事しているところがあります。農林水産省は「日本料理の調理技能の認定に関するガイドライン」を作成しました。その目的は、シェフが技能を高め、和食の魅力を広めるのを助けることです。

和食への注目が高まっているのとは逆に、日本は今、食料自給率がなんと40%の低さであり、欧米の食習慣が広まったことで、たいていの日本人の日常の食事は大きく変化しています。自給率の高い米の消費が徐々に減る一方、肉や乳製品及び加工食品の消費はこの数十年間で増加しています。1960年代は、たいていの日本人にとって日常の食事には、ごはん、魚及び野菜が含まれていました。当時の全体の食料自給率は70%を超えていました。

人びとは今、豊かで多様な食事を楽しんでいます。和食はもはや私たちのほとんどにとって日常の食事ではありません。けれども多様化・西洋化した食事は、肥満や生活習慣病のような多くの健康問題を引き起こしています。世界が和食を健康的だと賞賛しているのに日本人自身がますます伝統的な食事を食べなくなっているのは大きな皮肉ではないでしょうか？世界ではなく私たちのために、和食を広めるように真剣に考える時期なのです。

Ⅱ 問1 イ 問2 イ 問3 ア 問4 ウ 問5 ア 問6 ア 問7
ア 問8 ウ

全訳：インドの貧しい人びとを助けることに生涯を捧げたマザーテレサは、先月バチカンで信者の大群衆を前に、フランシス法王から聖人と宣言されました。この最も新しい聖人は1979年にその生涯にわたる献身によりノーベル平和賞を受賞しています。彼女は1997年に死去しており、この列聖化は異例なほど早いように思えます。通常誰かを聖人と宣言するまでには数十年、ときには数百年がかかるからです。

マザーテレサは、1910年8月26日にアグネス・ゴンジャ・ボヤジュとして、現在のマケドニア共和国のスコピエのまちに生まれました。彼女には姉と兄がいました。父のニコラスは成功した商人でヨーロッパ中を旅して、子どもたちに贈り物を持ってきたり、旅についての話を聞かせたりしていました。母のドラナは、非常に宗教心に篤く、子どもたちの世話と家事をこなすことで日々を過ごしていました。彼女の家はローマ・カトリックでスコピエでは宗教的少数派でした。スコピエではほとんどの人がイスラム教徒かキリスト正教徒でした。ドラナは敬虔で寛大であり、しばしば困っている見ず知らずの人にお金をあげたり、彼らを食事に招いたりもしていました。誰かが病気なら、食事と薬を持って行きました。アグネスはこうした訪問の際に母と一緒に行きました。他者への接し方についていかにアグネスが母親から大きな影響を受けたかが容易に想像できるでしょう。アグネスは幸せな子ども時代に慈善活動は道徳的義務であることを心に刻んだのです。

アグネスは18歳で世俗の持ち物は持たずに宗教的な生活を追求するために家を離れました。彼女は貧しい人びとの中でも最も貧しい人の間で生きる生活を選びました。彼女はインドに、そして後には世界中に孤児院やシェルターを設けました。彼女が死去するまでに、何千人もの信者が困っている人びとのために彼女と一緒に働いていました。マザーテレサは人びとを献身的に助けているという名声を得て、世界中を旅しながら世界のリーダーたちと会談し、支援を求めました。

他の偉大な人物と同様、マザーテレサも決して批判を免れているわけではありません。けれども白と青のサリーとサンダル姿の質素で気品ある姿は、世界中でおなじみとなりました。彼女は今でも私たちに、尊厳と配慮をもって人びとに接する意味を考えさせるのです。

Ⅲ 問1 エ 問2 ウ

Ⅳ (1) ウ (2) ウ (3) ウ (4) イ (5) ウ

Ⅴ (1) エ (2) イ (3) ア (4) ウ (5) エ